

平成26年度「とちぎっ子学力状況調査 4年」の結果概要について

宇都宮市立宮の原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、「開かれた学校づくり」を推進し、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成26年度「とちぎっ子学力状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

I 調査の概要

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日 平成26年4月22日（火）

3 調査対象 第4学年

4 留意事項

- ・ 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- ・ 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないが、これを一つの資料として本校の傾向や課題を分析するとともに、指導改善のポイントを併せて記載した。

Ⅱ 調査結果の概要

1. 4年国語

領 域 等	県と本校の比較 ※	平均正答率（％）	
		宇都宮市	県
話すこと・聞くこと	やや下回る	87.9	87.8
書くこと	下回る	67.6	67.1
読むこと	やや下回る	56.3	54.1
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	下回る	67.6	66.0

本校の傾向と課題及び指導改善のポイント

【話すこと・聞くこと】

- ・話し合いの内容を聞き取る問題で、話の中心に気を付けて聞くことや共通点や相違点を聞き取ることはよくできているが、話し方の工夫に気を付けて聞くことが県平均に比べ低い。
- 普段の生活の中から、話を集中して聞く習慣を身に付けさせていく。短い言葉や記号などをうまく活用して、メモを取る活動を引き続き行う。話し方の工夫を意識したスピーチをさせる。

【書くこと】

- ・「感謝の会」に招待する手紙を記述する問題で、あいさつの言葉・大事なこと・お願いの言葉など必要なことを書くことや敬語で書くことなど、いずれも県平均よりも低い。
- 手紙の書き方について、あいさつの言葉、中心となる要件、お願いの言葉など要点を一つ一つ確認しながら作文指導を行う。

【読むこと】

- ・中心となる語をとらえることや、叙述を基に登場人物の気持ちを想像して読むことは県平均と同程度だが、文と文のつながりに注意して説明文を読むことや、場面の移り変わりを叙述に基にして読むことは県平均より低い。
- 指示語や接続語に注目させ、文章全体のつながり・資料との関連・形式段落や意味段落のまとまりなどを意識した読み取りをさせる。物語文では、音読指導を継続し、登場人物の気持ちや様子をまとめたものをもとに、場面の移り変わりを意識させて読み取りをさせる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- ・漢字の読みはできているが、書きは2年生で学習した漢字も3年生で学習した漢字も県平均より低い。
- ・反対語やローマ字は県平均と同程度だが、国語辞典の使い方や指示語の使い方は県平均より低い。
- 既習の漢字について復習を繰り返し行う。できるだけ国語辞典を使う機会を増やす。

【その他】

- ・県平均に比べて無記入が多い。特に記述問題では無記入がかなり多い。

※「県と本校の比較」について	上回る	…全国平均より5％以上、上回っている。
	やや上回る	…全国平均より3％以上5未満、上回っている。
	同程度	…全国平均との差が上下3％未満である。
	やや下回る	…全国平均より3％以上5未満、下回っている。
	下回る	…全国平均より5％以上、下回っている。

児童質問紙調査の状況及び指導改善のポイント

- ・国語に関するほとんどの質問に対して、肯定率は県平均と同程度である。
- ・「国語は将来のために大切だと思うか」という質問に対しては、肯定率が県平均より低く課題がある。また、「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」という質問に対しては、肯定率が県平均と同程度ながら50％を切っており課題がある。
- 授業では、より生活に密着した内容も指導するようにして、国語で培った力が生活の中で生かされていることを実感させる。また、学校図書館司書と連携しながら図書室の利用を促進したり、情報モラルの指導を十分にインターネットの利用をさせたりする。

2. 4年算数

領 域 等	県と本校の比較 ※	平均正答率 (%)	
		宇都宮市	県
数と計算	下回る	69.6	68.7
量と測定	やや下回る	72.8	72.0
図形	下回る	77.8	78.0
数量関係	やや下回る	69.4	67.8

本校の傾向と課題及び指導改善のポイント

【数と計算】

- 同分母の真分数のたし算は県平均と同程度だが、整数や小数の四則演算はどれも県平均より低い。
- 計算した結果から正しい答えを判断し理由も記述する問題は、県平均より低い。
- 既習の計算問題を、復習問題として継続的に取り組ませる。また、授業の中で文章問題を扱う際に、考え方を説明したり記述したりする機会を増やす。

【量と測定】

- 時間や時刻を求めることや身近な物の重さを推測することは県平均と同程度だが、時間や長さの単位どうしの関係の理解や、はかりに示された重さの読み取りは県平均より低い。
- 時間や長さを扱う授業や日常生活の中で、単位どうしの関係や量感を意識させるような指導をする。

【図形】

- 球の半径と直径の関係の理解は県平均と同程度だが、三角形の定義の理解や作図、円の直径についての理解は県平均より低い。
- コンパスや三角定規などの使い方について個別に指導するとともに、作図をする機会を増やす。

【数量関係】

- を使った式に合った文章問題を選ぶことや、文章問題を表した図を選ぶことは県平均と同程度だが、わり算の文章問題から立式し答えを求めることは県平均より低い。
- 棒グラフの読み取りは県平均より低い
- 文章問題では、立式やグラフの読み取りに必要な部分に下線を引かせたり、図や具体物等を使って考えさせたりする。

【その他】

- ほとんどの問題で無記入が県平均より多い。

※「県と本校の比較」について	上回る	…全国平均より5%以上、上回っている。
	やや上回る	…全国平均より3%以上5未満、上回っている。
	同程度	…全国平均との差が上下3%未満である。
	やや下回る	…全国平均より3%以上5未満、下回っている。
	下回る	…全国平均より5%以上、下回っている。

児童質問紙調査の状況及び指導改善のポイント

- 算数に関するほとんどの質問に対して、肯定率は県平均と同程度である。
- 「今回の算数の問題を解く時間は十分だったか」という質問に対しては、肯定率が県平均より低い。また、「算数の学習は楽しいか」という質問に対しては、肯定率が県平均よりやや低い。
- 自分たちに身近で必要感を感じられる問題提示など、関心・意欲を高められ、進んで追究したくなるような課題提示を工夫し、進んで学習に取り組めるようにさせる。また、朝の学習やステップアップテストなどを利用して既習事項の復習を繰り返し、算数の問題を解くことに慣れさせる。

3. 4 年理科

領 域 等	県と本校の比較 ※	平均正答率 (%)	
		宇都宮市	県
物質・エネルギー	やや下回る	73.1	71.8
生命・地球	下回る	67.9	67.8

本校の傾向と課題及び指導改善のポイント

【物質・エネルギー】

- ・「ものと重さ」では、はかりの使い方は県平均と同程度だが、物は形が変わっても重さは変わらないことやてんびんのつり合いについては県平均より低い。
 - ・「風やゴムのはたらき」では、風の強さと物の動きについては県平均と同程度だが、実験結果から推測をする問題では県平均を下回った。
 - ・「光のせいしつ」では、鏡や虫眼鏡を使った実験についての知識は県平均と同程度だが、虫眼鏡の安全な使い方については県平均を下回っている。
 - ・「磁石のせいしつ」では、鉄を引き付ける場所についての理解は県平均と同程度だが、性質の理解は不十分である。
 - ・「電気の通り道」では、回路についての理解や作図は県平均と同程度か上回っているが、性質についての理解が不十分である。
- 知識・理解が不十分だった「物と重さ」では、実験を通して一人一人に確認させる。実験の技能が不十分だった虫眼鏡の安全な使い方は、何度も繰り返し指導し定着を図る。思考・表現については、問題文や選択肢を正しく理解できるよう下線を引いてから考えるよう指導する。また、電気と磁石に関連する単元では、性質を混同しているようなので関連する単元では何度も既習事項を確認する。

【生命・地球】

- ・昆虫の飼育や変態の仕方については県平均と同程度だが、昆虫とそれ以外の虫を区別した理由を記述する問題は県平均より低い。
 - ・植物の育ちや観察カードの書き方については、県平均より低い。
 - ・観察するときの虫眼鏡の使い方は県平均と同程度だが、身の回りの生物の生息場所については県平均より低い。
 - ・「太陽と地面のようす」では、方位磁針や温度計の使い方、日向と日陰のでき方や明るさと湿り具合のようす、太陽と影の動きの関係などいずれも県平均より低い。
- 知識・理解が不十分な植物のようすや身の回りの生き物や影のでき方などは、身近な自然に触れる機会を増やし学習した内容と生活の中での体験を関連づけさせる。実験・観察の技能が不十分だった方位磁針や温度計の使い方や観察カードの書き方は、他の単元や科でも使うときに繰り返し指導して定着を図る。思考・表現については、知識・理解や実験・観察とも関係が深いので、正確な実験や観察を通じて得た正しい知識をもとに自分の考えを表現できるよう指導する。

※「県と本校の比較」について	上回る	…全国平均より 5 % 以上、上回っている。
	やや上回る	…全国平均より 3 % 以上 5 未満、上回っている。
	同程度	…全国平均との差が 上下 3 % 未満である。
	やや下回る	…全国平均より 3 % 以上 5 未満、下回っている。
	下回る	…全国平均より 5 % 以上、下回っている。

児童質問紙調査の状況及び指導改善のポイント

- ・理科に関するほとんどの質問に対して、肯定率は県平均と同程度かやや高い。
 - ・「自然の中で遊んだことや自然を観察したことがある」という質問に対して、肯定率は県平均よりやや低い。
- 実験や観察などで、できるだけ一人一人が本物に触れられる機会を多くする。また、身近にある「不思議だな」や「なぜだろう」と思う気持ちを大切に、授業に生かせるようにする。